

学校名	小城市立三日月中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標と重点目標を念頭に置いた教育活動が展開できたと考える。日頃の授業改善だけでなく、タブレット端末を活用した学びの多様性に念頭を置いた実践の成果と考える。また、生徒指導と教育相談およびカウンセラー等が連携することで、学校全体で生徒が相談しやすい環境づくりができたと考える。しかし、30日以上欠席をしている生徒は増加傾向にあり、今後の大きな課題である。
------------------	--

2 学校教育目標	夢に向かい主体的に学び、行動できる生徒の育成 ～夢・自信・チャレンジ三中～
----------	--

3 本年度の 重点目標	・特別支援教育を視点に置いた個別最適な学びと協働的な学びについて研究と実践を行う。この校内研究と研修を通して、特性のもつ生徒について全職員で共通理解した実践ができるようにしたい。
----------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目								主な担当者	
重点取組			具体的取組		中間評価		最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)			進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)		実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 「かけはしノート」の活用を通して、家庭学習時間の確保・質の向上を目指す。	○「かけはしノート」は、家庭での授業内容の復習やその理解に役立っていると回答する生徒が80%を上回る。	・子どもの実態に応じた「かけはしシート」の活用の工夫改善を通して、授業と家庭学習のつながりを深める工夫に取り組む。	B	・「かけはしノート」の効果的な活用について、職員と共通理解を図り、共通実践ができている。また、生徒会の学習部と連携し、ノートの効果的な活用の取組を行うこともできている。ただ、一部の生徒については、ノートの内容や提出が不十分な現状がある。今後も引き続き、ノートの活用法の更なる工夫改善を呼びかけ、学力の定着を目指す。	A	・全国調査結果を見ると、3年生の国語は平均並み、数学は全国平均を上回っている。2年生は県調査を見ると、国語、数学、英語ともにやや県平均を下回っているが、学力は伸びつつある。これらの結果は、「かけはしノート」の効果的な活用が浸透しつつあることが要因と推測する。	・学力向上 コーディネーター	
	○主体的・対話的で深い学びを促す活動を中心とした授業づくりの実践	○先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫していると回答する生徒が80%を上回る。	・授業で「めあて」「まとめ」「ふり返り」の時間を確保する。その上で生徒の実態を念頭に置きながら、主体的・対話的に学習に取り組む授業展開を図る。	A	・授業で「めあて」「まとめ」「ふり返り」の時間を確保し、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む授業を行なっていると回答した教師が95%で、目標を達成できた。今後も教科部会や校内研究で検討する。	A	・先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫していると回答する生徒が88.7%で、数値目標を上回った。 ・校内研究の授業研究発表会で教科の枠を超えて授業の手立てに対する議論ができた。	・研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の時間は、自己の成長に役立つと思う生徒の割合を80%以上とする。	・学年職員全員で道徳の授業を行い、道徳教育の充実に取り組む。 ・生徒の「出演」「役割」「承認」を大切にしたい実行委員会形式による学校行事の実践や生徒会活動の充実を図る。	A	・学年職員全員で道徳の授業を行い、学年の全生徒が同じ内容を共有することができるため、集会などで取り組みのフィードバックができやすい。 ・実行委員会形式による学校行事への積極的な取り組みの実践は、生徒の一人一人の自己肯定感を高める手立てとして今後も取り組ん	A	・「道徳の授業が、生徒の生命の大切さや、人権意識の高揚に繋がる」と、考える職員が100%であり、担任を問わず職員全員で取り組むからこそよい結果となった。また、「道徳の授業で周りの人について考えることで彼らを大切にしたいと思う気持ちが高まり(88%)」、そのことが「自身の成長にも繋がっている」と考える生徒が87%となったことから、目標達成と捉える。	・道徳教育推進教師	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと回答する生徒が80%を上回る。	・毎月いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する研修会(講演会)を1回以上行う。 ・個に応じた支援を充実させるため、特別支援に関する講習、講話を通して、知識を高め、実践する。	A	・毎月のいじめアンケートに「学校が楽しいか」の項目を設け、毎月80%以上が楽しいと回答している。職員のアンケートにおいても個々に応じた生徒指導に関する項目が前年比27.3ポイント上昇し、アンケートや日頃の生徒指導の意識が高まっている。 ・情報モラル教育に関する講習会を12月に実施予定。 ・特別支援に関する講習、講話が4回行われ、アンケートにおいても個に応じた支援に関する項目が前年比20ポイント程度向上した。	A	・学校が楽しいと回答する生徒が約85%で、目標値を上回ることができた。また、前年比で+7.8ポイント高めることができた。その要因として、生徒指導における組織的な対応を行い、いじめの早期発見・早期対応に全職員で積極的に対応ができていること、教職員の生徒への共感的理解や生徒の指導に関して共通理解を図った対応(前年比+29.7ポイント向上)が効果があったと考えられる。	・生徒指導主事 ・教育相談担当	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・日頃の教育活動全般を通じて、生徒の自己肯定感を高めるような声かけを行うと共に、学級活動で互いを認める取組を行う。 ・生徒の自己の成長や将来の夢につなげるため、輪番で教職員が「心の講話」を行う。	A	・個に応じた支援を行うために、スモールステップによる支援や声かけを行えている。また、日々の学級活動や行事等で生徒に役割を与え、承認することができている。 ・毎月、輪番で教職員が「心の講話」を行い、生徒に人権意識や自己成長、将来の夢に関することを考える活動を行っている。	A	・生徒アンケートにおいて「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒が87%となり、目標値を達成した。生徒の自己肯定感を高めるような声かけを行うだけでなく、各学年ごとに生徒の実態に応じた対応を組織的にできたことも起因すると考えられる。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒約71%となり、目標値には達しなかったが、自己形成段階の生徒にとって、44.4%が「当てはまる」と答えていたことは、輪番による教職員の「心の講話」(前年比+11.7ポイント向上)が効果的だったと考えられ、好影響につながったと考えられる。	・生徒指導主事	
	○無言清掃の取り組みにより、心の成長につなげる。	○無言清掃に取り組むことで、心の成長につながっていると回答する生徒が80%を上回る。	・無言清掃への意義を高めるために生徒集会や職員研修で伝えと共に、学年を縦割りにした合同清掃会を行う。	B	・生徒会整美部を中心に、無言清掃に取り組んでいる。職員アンケート結果は81.8%が心の成長に繋がたと回答。1.2学期に縦割りの合同清掃は効果が出ているように思う。今後も、集会等を通じて、生徒一人一人の無言清掃に対する意識改革を図っていく。	B	・生徒アンケートから、無言清掃が心の成長につながっていると回答した生徒の割合は70.9%で前年度から+0.3ポイント向上に留まる。職員は60%が心の成長に繋がたと回答し、残念ながら低い数値となった。今後も引き続き、無言掃除に取り組む、その中で無言清掃に取り組む意義や効果等について、生徒会全体で考える必要がある。	・清掃担当	
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①生徒指導部で毎月出される成長目標の達成が80%以上 ②「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・生活部とタイアップして生活習慣のアンケートや自己の評価をし、PDCAサイクルができるようにする。 ・食育の大切さについて考える授業や学活に取り組む。 ・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に取り組む。	B	・遅刻0が達成できておらず、望ましい生活習慣を意識した生活を心がけさせる必要がある。 ・食育の大切さについて考える授業を行うことができた。自分で、給食のメニューなどを参考に、よりよい食事メニューを考えることができた。 ・交通安全教室だけでなく、自転車の乗り方のルールやマナーを継続的に伝えることができたが、地域や警察などと連携し、自転車の乗り方のルールやマナー向上を図る必要がある。	B	・早寝早起きや規則正しい生活は7割以上の生徒ができている。また、食事について考え、きちんと摂取している生徒も9割以上の生徒が達成している。 ・自転車の乗り方のルールやマナーを継続的に伝えることができることができ、2学期以降は、交通事故1件に抑えられた。また、生徒のアンケートにおいて「交通事故防止に注意」の項目で95%が取り組めており、集会等での継続的な指導が効果的だと考える。 ・食育の大切さについて考える授業を行うことができた。ただ、残食や偏食があり、食育の大切さを考える授業の継続が必要である。	・保健体育担当 ・食育担当 ・生徒指導主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○業務効率化と時間外勤務の削減に努めている割合を80%以上にする。	・部活動時間、休養日の徹底。 ・学校行事の内容再検討および行事、会議等の内容精選。 ・年休取得推進の呼びかけ(特に長時間勤務者へは声かけをしていく)。	B	・業務効率化と時間外勤務削減に取り組んでいると答えた教師が、63.7%(昨年比+4.6ポイント)であった。今後も引き続き、業務内容厳選、効率化等、働き方改革を進め、同項目の数値目標80%以上を目指す。 ・業務記録表をもとに超過勤務傾向にある教職員を中心に、職務遂行状況の確認及び積極的な声かけを行う。	B	・本校教職員の時間外在校等時間平均は、43.7時間(1月末現在)であり、平均では45時間を下回った。また、「業務効率と時間外勤務時間の削減に取り組んでいる」と答えた教師が、80.0%(昨年比21.0ポイント上昇)であり、数値目標は達成できた。 ・一方、10名が45時間の時間外在校等時間平均を上回り、年次休暇取得5日未満の教職員も4名いた。今後も教職員の健康障害防止と教育の質の向上に向けた改善を行っていく。	・管理職	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実(個別最適な学びと協働的な学びについての研究と実践)	○生徒の支援につなげた教職員の割合を80%以上にする。 ○特性をもつ生徒について全職員で共通理解した実践を行う。 ○個々の生徒の進路実現を目指す。	・職員研修(年5回) ・ユニバーサルデザインに基づいた教室環境整備 ・「かけはしノート」の効果的な活用	A	・個別最適な学びを目指し、個に応じた対応策を考えている先生方が増えた。全職員での共通理解も可能な限りできているが、異学年となるともう少し深める必要がある。 ・職員研修は外部からの講師を招き、深めることができた。	A	・校内での職員研修を重ね、特別支援教育の基本的な考え方の知識が広まった、深まったと回答した教師が90%を超えた。また、共通理解事項にしたがって対応できている教師は100%であった。	・特別支援教育コーディネーター	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	進捗度 (評価)	実施結果	
○校内研における学力向上の取組	○個別最適な学びと協働的な学びの充実 ～特別支援教育の基本的な考え方をふまえて～	○特別支援教育の基本的な考え方の知識が広がった、深まったと回答する教員が80%を上回る。	・特別支援に関する講習会を年に4回実施 ・講習会を受けて授業実践を行い、成果と課題を確認する。	A	・特別支援教育の基本的な考え方の知識が広まった、深まったと回答した教師が95%で、目標を達成できた。今後の授業実践研究会などにいかしていく。	A	・今年度の校内研究が自分の役に立ったと回答した教師が95%であった。 ・講師を招いたことで知識を深め、授業実践に活かした。学びの選択性など生徒の個別最適な学びの充実についても議論できた。	・研究主任

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 アンケート結果をもとに、教職員・生徒・保護者の満足度が向上した。ほとんどの項目で改善が見られ、学校全体の努力が実を結んでいることがうかがえる。生徒アンケートで、「先生は、わかりやすい授業になるように、いろいろな工夫をしている」と88.7%(昨年比+2.3ポイント)が答えた。要因として「かけはしノート」の有効活用や授業改善、生徒の主体的な活動を設定することや特別支援教育に対する教職員の意識改革などが肯定的な受け止めにつながったと思われる。引き続き取り組むべき課題として、不登校が多い現状があり今後も対策を検討する必要がある。今年度の成果を踏まえ、次年度はさらに、特別支援教育を視点においた個別最適な学びと協働的な学びについて、研究の充実を図る。特に、学習支援の充実、居場所づくり、ICTの活用などを学校全体として、引き続き前向きに改善を進めていきたい。
----------------	---